《地域がん診療連携拠点病院》《地域医療支援病院》《基幹型･協力型　臨床研修病院》《災害拠点病院》
《日本医療機能評価機構　Ver.6 認定病院》《熊本 DMAT 指定病院》

2012
2
No.475

翔
人吉総合病院
広報誌

理　念

130年の歴史と設立の経緯を忘れず全人医療を提供します

基本方針

患者中心医療	患者診療3本柱	完結型医療	社会貢献	医療人育成
患者の人権と意思を尊重します	がん・救急・予防医療を中心に医療機能の充実を図ります	地域の医療機関との連携を行い安心できる医療の展開を行います	災害医療派遣・医療情報公開・医療ボランティアの活動を行います	医療に携わる喜びが持てる医療人の育成を行います

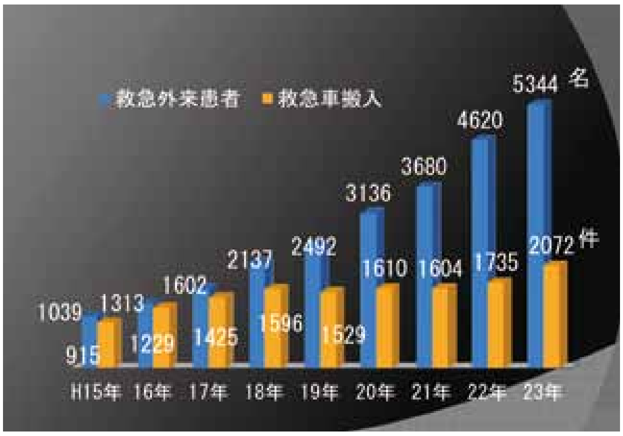
これからの救急医療体制

平成 23 年に当院の救急外来を受診した患者数は 5344 名、救急車の搬入件数は 2072 件でした。救急患者は毎年増加しており、5 年間で 2.5 倍になっています。これは高齢化や生活習慣病による真の救急疾患が増えている要因もありますが、社会的な要因もあります。この増加傾向は今後も続くと考えられ、当院はこの地域中核病院として救急受け入れ体制を整備していく必要があります。

まずハード面では救急外来の拡張を予定しています。現在建設中の新診療棟の 1 階に救急センターが入ります。初療室が 2 室、小外科手術が行える初療室 1 室、診察室 1 室、観察用ストレッチャー 5 台分のスペースを確保しています。また CT 室、心カテ室、IVR 室を隣接させ、緊急検査や治療が迅速に行えるようにしています。新棟の屋上にはヘリポートを設置し、転院搬送やドクターヘリ受け入れ時の時間短縮を図ります。

運用面では現在各診療科の医師が当番で救急外来の初期対応を行っていますが、このまま患者数が増加し続けると勤務体制に問題が生じます。救急専門医や総合医の確保が望まれますが、現在の医療情勢ではすぐには難しい面があります。昨年 2 名の看護師が救急認定看護師の資格を取得しました。まずは彼らを中心に救急センターのメディカルスタッフを充実させ、体制を整備していく方針です。

しかし救急医療は一医療機関で解決できる問題ではなく、地域で取り組むべき課題でもあります。救急外来を時間外に受診する軽症の非紹介患者が増加しています。小児患者の場合は核家族化のために小児の急病に対応できない両親が増えていることも一因と考えられます。当院では「天使の知恵袋」という小児の急病に関する母親向けの講習会を開いたり、電話トリアージを行っていますが、解決にはやはり地域の大きな力が必要です。



また心肺停止状態の超高齢者の方が心肺蘇生術を受けながら救急車で搬送されるケースも増加しています。これからわが国は空前の超高齢化社会へ突入していきますが、リビングウィルは非常に重要な問題です。超高齢者やがん終末期の方々が自宅で安らかな最期を迎えられるようなシステムや、それを受け入れる社会の醸成が必要です。

救急委員会委員長　下川　恭弘

「熊本県ドクターヘリ運行開始」

防災消防ヘリは病院間搬送や救助を伴う案件を担当し、Dr ヘリは救急現場運航と役割分担した「熊本県型ヘリ救急搬送体制」として、1 月 16 日に Dr ヘリが運航を開始しましたが、人吉下球磨消防管内では最初の Dr ヘリ搬送となる救急事案が、1 月 30 日五木村（北分署管内）で発生しましたのでご紹介します。

概要は、ホームヘルパーが傷病者宅を訪問したところ、居間で意識をなくしている傷病者を発見し、119 番通報した事案です。受電した指令課では重篤事案と判断し、現場が北分署から約 20km、現場到着まで約 45 分の下梶原地区であることから、Dr ヘリを要請しました。

救急隊は、出動から 30 分後に Dr ヘリとの合流地点である地区のグランドに到着しましたが、Dr ヘリは要請から約15分で到着､上空で旋回して待っていました。着陸後、救急車に医師・看護師が同乗して、約 5km を 15 分程で現場に到着しました。現場到着時の傷病者は意識がなく、医師・看護師・救急隊による合同の現場活動となりました。傷病者は、ブドウ糖を静注してから徐々に意識が回復、ヘリが待機する着陸地点まで搬送し、そこから人吉歴

史の広場までヘリで搬送、そのまま人吉総合病院へ収容しました。

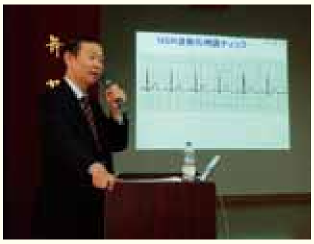
まとめますと、救急車だと現場活動から約 2 時間かかるところを、Dr ヘリでは約 1 時間の活動で済んだ救急事案でした。今回の事案は、医師による現場処置、病院収容までの大幅な時間短縮と Dr ヘリ最大のメリットが活用できた事案でした。

終わりに、熊本赤十字病院のフライトドクター奥本克己先生が言われる「攻めの医療」を感じるとともに、これからの熊本型 Dr ヘリ運用の活躍に期待致します。

人吉下球磨消防組合中央消防署北分署
救急救命士　豊永　浩

心電図勉強会開催

2 月 4 日に老神会館でモニター心電図講習会を行いました。今回、開催に至るきっかけとなったのは、救急や病棟看護の中で心電図が分からないという看護師の声が多くあったからです。学校では基本的な事は教わりますが、詳しいことに関しては、各自で中央まで出かけていき、多くの費用と時間をかけて講習会に参加しなければなりませんでした。そこで、近くでも気軽に学べないかと思い、この講習会を開催しました。



今回は日本光電の大山正一先生を講師に迎え、心臓の解剖、電気の流れ、心電図の意味するものなど、基本的な内容から始まり、約 6 時間みっちり学習しました。講習では、各自でデバイダを使いながら、心電図の PQ 間、QRS 間を測定しました。実際に心電図を前に、不整脈について洞調律異常（洞徐脈、洞頻脈、洞停止など）、興奮電導障害（1 ～ 3 度ブロックなど）、異所性収縮（Af、PVC など）など、その機序から解りやすく丁寧に解説があり、重篤度による不整脈の分類や、医師にどの様に報告すべきかなど、普段の看護でみんなが迷うような事例も学習することができました。また、最後のセクションでは、実際に心電図の演習問題を行いましたが、解っていたつもりでも実際には解っていなかったり、テキストを見ながらでないと回答できなかったり、継続した学習が必要であることを痛感しました。今回土曜日にも関わらず、新人からベテランまで 48 名の参加があり、改めて心電図に対する関心の高さを感じました。今後も応用編へと講習会を計画していきたいと思います。

4 階病棟看護科長　渡辺　朋子

在宅緩和ケア・在宅看取りに力を入れます

日本ホスピス・緩和ケア研究振興財団(2012)の調査によると、がんで余命が1～2か月に限られていれば8割以上が自宅で過ごしたいと考えていますが、自宅で過ごすことが実現可能だと思っている人は2割を切っているという報告をしています。昔は在宅で最期を迎えることが当たり前であったのが、近年では病院で最期を迎えることが当たり前の時代になり、患者さんの過ごしたい場所とは違う場所で最期を迎えることが多い状況です。そこで、当院ではできるだけ自宅で長く過ごしたいという気持ちや、最期を迎えたいという気持ちを支えていけるような活動に力を入れます。

在宅看取りで重要な点は「苦痛をどう緩和するか」「急変時はどうすればよいか」などの不安を解消することだと考えます。そこで、まずは当院訪問看護の充実を図っていこうと計画しております。これまでも当院では訪問看護を行っていましたが、これまで以上に患者さんに情報提供する機会を増やし、機能も円滑で充実したものにしていこうと考えております。訪問看護を利用すれば、定期的に疼痛の状態を確認できますし、医師ともしっかり連携をとっていますので、必要時には医師と円滑につなげることができます。また、訪問看護は24時間の緊急支援体制をとっています。訪問看護利用患者さんに関しては、急変時に連絡していただければ対応できますので、安心した在宅生活を送ることができます。

さらに、在宅看取りを安心して迎えるために、緩和ケアとはどういうものなのか、看取るとはどのような過程を辿っていくのかという情報提供や心構えをもつことができる機会を設けていこうと考えています。そのために、当院スタッフで地域住民向けや介護施設での講演会活動を行っていく予定です。

今後も、当院での活動を増やしていきながら、患者さんやそのご家族の希望に沿った療養生活が送れるように活動していきたいと思います。

緩和ケアチーム　看護科長　赤池　直子

化学療法室　紹介

近年、患者さんの生活の質（QOL：Quality of Life）の維持・向上や新規化学療法薬、副作用予防薬の開発・進歩によって、入院せずに通院で治療に取り組むことができるようになってきました。当院では、2002年7月から化学療法室が開設され、現在は、リクライニングシート6台が用意され、備え付けのテレビを見ながらリラックスして点滴を受けていただいています。昨年の化学療法室の件数は1213件で外科、婦人科、血液内科、呼吸器内科、消化器内科、泌尿器科と様々な診療科の方が治療を受けられています。専任のスタッフは医師1名、薬剤師1名、専属の看護師2名、社会福祉士、臨床研究コーディネーターがおり、他職種のスタッフで化学療法における身近な問題を一緒に解決できるよう支援しています。また、病棟の患者さんのラウンドや病棟スタッフへの教育をおこない、連携や看護の質の向上を図っています。 当院の化学療法室では患者さん・ご家族を多方面からサポートし安心して治療を受けていただける環境を提供していきたいと考えています。

がん化学療法看護認定看護師　矢立　雅章

栄養指導講習会を開催しました

毎年開催しています、職員向け栄養指導講習会を今年度も開催しました。

今年度の職員検診の結果から、脂質異常症を指摘されている職員が多かったことから、今年度のテーマは『油・脂について学ぶ』と題し、脂質を抑えたお弁当を食べてもらいながら講義を受けてもらいました。

アブラと一言で言っても様々な種類、様々働きがあります。(右表参照)

「油が酸化する」とは、酸素や湿度、温度、金属イオンなどの影響をうけ油の構造、栄養価が変化してしまうものです。この酸化した油を摂取すると、動脈硬化を進行させたり、アレルギー症状を悪化させるなどの報告があります。揚げ物の油を繰り返し使ったり、揚菓子や揚げ物を何日かに分けて食べたりしていませんか？

油の種類や量だけでなく、扱い方（保存方法）にも注意しましょう。

ω－3系脂肪酸は積極的にとって欲しい油です。目安としては、1週間に5回は魚中心の食事にする事！動脈硬化予防のお食事、是非取り組んで見てください。

栄養課　若松　利枝

		性状	働き・特徴	多く含む食材
飽和脂肪酸		常温で固体	悪玉コレステロールを増やす	動物の脂身 バター、ラード
不飽和脂肪酸	ω-9系脂肪酸 (一価不飽和脂肪酸)	常温で固体	酸化しにくい 悪玉を減らす (働きは弱い)	オリーブオイル 菜種油 アボカド
	ω-6系脂肪酸 (多価不飽和脂肪酸)	常温で固体	酸化し易い 悪玉減らすが、摂り過ぎは善玉も減らす	大豆油 コーン油 ゴマ油
	ω-3系脂肪酸 (多価不飽和脂肪酸)	常温で固体	酸化し易い 善玉増やし、動脈硬化予防	魚のあぶら しそ油 亜麻仁油

レンコン入り肉団子(4人前)

69kcal　脂質2.9g(1人前)

レンコン(水煮)　35g　木綿豆腐　35g　豚ミンチ　60g
溶き卵　大さじ1　塩コショウ　適量　片栗粉　小さじ2
ケチャップ　大さじ1.5　ソース　小さじ1

① れんこんは半分をすりおろし、半分をあらミジンにしておく。
② ボールに①、水切りをした豆腐、豚ミンチ、鶏卵を入れよく混ぜる。
③ ②に調味料も加え、よく捏ね、一口大の大きさに丸め片栗粉をまぶす。
④ ③を一度オーブンで焼くかレンジで蒸し、ケチャップ、ソースで煮込むかレンジで再加熱。

医療事務実習をおえて

平成23年12月13日～平成24年1月24日の約1ヶ月間、医療事務の実習に来られましたので感想を掲載いたします。

今回の実習で様々な部署を回らせてもらい、とても良い経験ができました。
病院ならではの雰囲気を感じることができたり、様々な職種の方がどのように働かれているのかを実際に見ることができたり、医療機関で働くというイメージをつかむ事ができました。

実際に患者さんを応対して、患者さんに対して何かを伝えるというのはとても難しいと実感しました。質問に対して自分だけが分かる説明ではなく相手に理解してもらえるような伝え方、予想していない返答があっても焦らずきちんとした対応ができるようなスキルを身に付けなければいけないと思いました。

また、業務内容等を教えていただいたりする中で、医療に関する知識が不足していると感じました。学校で学んだことは詳しいところまで調べ、就職先で活かせるようにしていくことが必要だと、改めて感じました。

今後の課題も見つけることができ、これらを克服できるように今回の実習を思い出しながら今まで以上に勉強に励みたいと思います。机の上だけでは分からないことも多くあるので、現場での体験できる時は進んで参加することも大切だと思いました。

1ヶ月間、お世話になりました。ありがとうございました。

宮崎医療管理専門学校２年　小俣　梨紗

静脈血栓塞栓症予防対策チーム発足！

エコノミー症候群という病気については、ご存知でしょうか？

血管の中で血の塊（血栓）ができてしまい、肺の血管を詰まらせるといった怖い病気です。医学的には静脈血栓塞栓症（以下 VTE）という疾患で、手術を受ける際にも起こす危険の高いことが知られています。当院でも予防対策を行ってきましたが、昨年手術室を中心とした予防対策チームを発足し活動しています。まず、肺の血管を詰まらせる原因となりやすい深部静脈（多くは足）の血栓防止のために医療用靴下を履いたり、専用の器械をつけ血液の流れを促進させます。また、危険が高いと判断した場合は血が固まりにくくする薬剤を使用します。このように手術を受ける患者様や手術に応じた予防策を行います。

この病気は患者様自身の参加も大きな予防策の一つです。足先の運動だけでも足の血液の流れを促進させる働きがあるので積極的に行っていただきたいと思います。

ご不明な点やご意見などありましたら手術室までお気軽にご連絡下さい！

手術看護認定看護師　尾方　陽子

節分 緩和ケア病棟豆まき

節分とは季節の分かれ目の意味で､｢立春｣｢立夏｣｢立秋｣｢立冬｣の前日をさしていました。特に、節分が「立春」の前日をさすようになったのは、冬と春の境目が一年の境目と考えられていたからだそうです。そこで、一年の終わりに鬼を払って無病息災を願います。さて、緩和ケア病棟でも、一日早いですが２月２日（木）に、毎年恒例の豆まきが行われました。鬼役は、これもまた緩和病棟行事の恒例となってきましたが、相談員の畑田が扮しました。あまり怖くない鬼が患者さんの部屋を一部屋一部屋まわり､｢鬼は外、福は内｣の掛け声とともに撒かれる豆で退散していきました。患者さんやご家族も笑顔で豆を撒き、福を呼び込んでいました。

みなさんも福を呼び込み、今年一年がよい年となりますように。

緩和ケア病棟　臨床心理士　畑田　惣一郎

新病院 モデルルーム完成

この度、旧看護学校校舎内に病室の実寸大「モデルルーム」が完成しました。新病院の病棟は５階から９階に位置し、個室と２床室で構成されます。病室の大半が室内にトイレを設け、車イスでも利用できる広さを確保しています。また、個室にはユニットシャワーが付くお部屋もあります。これから病院スタッフがモデルルームを見学、患者導線等を確認し、よりよい環境の病室が出来るよう検証を行っていきます。

情報企画課　那須　智子

２床室

個室

トイレ

笑って健康促進！ 第73回 翔句会開催！

平成二十四年二月開催分の句をご紹介します。
どうぞご鑑賞下さい。

川柳句会「翔」平成二十四年二月分

- あの雲も親子だろうか川の字に　章子
- 雲の顔ふと懐かしい人に似て　章子
- 人柄のやさしい文字の年賀状　章子
- 制服は働く顔にさせてくれ　章子
- 長生きは病気なしで願いたい　地内レイ
- 人は皆良く見え聞けば波があり　地内レイ
- 一寸待て小犬が猫とじゃれている　勝
- 初夢が泡と消えるか宝くじ　正三
- ホッとするあなたの声を聞く度に　佐津子
- ありがとう看護師さんの温かさ　佐津子
- 久びさの句会に皆の笑顔好き　緋紗
- 梅蕾紅さし早春（はるを）待つ風情　緋紗
- 節分の豆で東北の鬼祓う　緋紗
- 八十路でも女ですもの紅をさす　カヅ子
- 老い二人傘寿と喜寿の祝膳　カヅ子
- 帰省の子ただお帰りとだきしめる　カヅ子
- 福袋行列並び夢を買い　保義
- 桜咲き桜散る子はかわいそう　保義

次回は平成二十四年三月一日（木）十四時から予防医療センター二階の図書コーナーで開催致します。
ご自由にご参加下さい。投稿のみの参加もできます。院内設置の投稿箱にご投稿下さい。

ひまわり会（乳房切除された方の会）のご案内

当院では、乳房を切除された方の会「ひまわり会」を開催しています。

「ひまわり会」では楽しく・役立つ情報を皆様にお伝えしたいと考えております。今回、手術後の下着・パット選びについて、有限会社キムラの白石様より講義していただくこととなりました。

手術後に「おしゃれをしたい」「夏にTシャツが着れない」「肩がこる」「前の下着が着れない」といった悩みを抱える方が多いと感じております。正しい姿勢で、おしゃれを楽しむために、今回の講義が役立つことを願っております。

外科外来看護師　地下　奈緒

日　程：平成 24 年 3 月 19 日（月）
時　間：14：00 ～ 15：00
場　所：老神神社会館
※ 人吉総合病院の裏にある神社です。
内　容：自分に合った下着を身に付けよう。
講演者：有限会社 キムラ　白石　千春　様
会　費：無料

※当日、希望者には下着のフィッティングを行います。
ひまわり会に関するお問い合わせ：
0966-22-2191（代）　相談支援センター尾方

1 月の勉強会報告

1 月 12 日（木）乳腺カンファレンス

1.「乳癌術後経過観察中に、体側乳房に認められ乳癌との鑑別が困難であったDuctal hyperplasiaの一切除例」
熊本大学医学部附属病院
臨床研修医　門久政司　先生

2.「臨床所見上、乳癌が強く疑われた乳腺症（fibrotic disease）の一例」
健康保険人吉総合病院
外科　辛島龍一　先生

新任紹介

根笹（ねざさ）　真由美（まゆみ）　（3階　看護師）
最終卒業校：鳳凰高等学校　衛生看護専攻科
趣味：料理、編み物
特技：日本舞踊
生活信条：他人にされて（言われて）嫌なことは絶対にしない（言わない）
自分の性格：3人兄弟の末っ子で1人娘なので、甘えん坊な面もありますが、負けず嫌いでもあります。
自分のコマーシャル：名古屋でのフットケアについて専門的に学び、去年フットケア指導士を取得できました。この資格を活かして、少しでも皆様の力になれるよう頑張りたいと思います。

お知らせ

2 月 29 日（水）18 時～　老神神社内会館において倫理特別講演会を開催致します。
講師に一般社団法人日本尊厳死協会の松根敦子副理事長をお迎えし、「尊厳死」をテーマに講義して頂きます。

尊厳死につきましては、近年様々な分野からの議論がなされており、医療に携わる者と致しましても非常に興味深い内容となっております。多くの皆様のご来場をお待ちしております。

お問合わせ：医療福祉連携室
（代表 0966-22-2191 ／内線 240）

発行／健康保険人吉総合病院　題字／「翔」吉村伯舟　初刊／昭和47年9月　印刷／㈲ソーゴーグラフィックス
TEL0966-22-2191・FAX0966-24-2116　URL http://www.hitoyoshi-hp.jp/　E-mail hitoyb49@estate.ocn.ne.jp